

綱 領

われわれ JAYCEE は社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇氣と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島 JC ニュース

FUKUSHIMA
JUNIOR CHAMBER
OF COMMERCE

—福島青年会議所新聞—

福島青年会議所新聞

WEB版 Vol.506

発行責任者 今野 陽介
編集責任者 伊藤 大地
発行日：2018年5月

第6回 暁まいり福男福女競走

2018.2.10 [SAT]



2018年2月10日（土）福島市信夫山にて第6回暁まいり福男福女競走が行われました。福島市の伝統行事、羽黒山の山頂に鎮座する羽黒神社の例祭「信夫三山暁まいり」は、300有余年に渡って「五穀豊穰」「家内安全」「身体強健」「縁結び」を祈願する祭事として、かつては毎年10万人以上が訪れ、大変な賑わいを見せていました。しかし、現代では「暁まいり」の起源や創始の思いが色褪せ、市民の関心も徐々に希薄化してしまっていました。そこで、「暁まいり」の起源や由来を発信し知名度を上げ、当時の賑わいを取り戻すべく、「暁まいり福男福女競走」の実施に至りました。

第1回目よりメディアに取り上げられ反響が大きく、昨年開催の第5回目では参加者数が450名を超え徐々に知名度が拡大し、今年は613名の申し込み、実質参加者500名で開催しました。今回は民放4社以外にもNHKでも取り上げられ、ケーブルテレビではタイムリーにYouTube内で中継もアップして頂いたことから、年々事業の注目度が増していることが実感できました。「暁まいり」の由来や歴史を発信し、伝統ある「わらじ文化」を伝承する一助になれたと思います。

このレースでは、信夫山山麓噴水公園前大鳥居付近をスタートに、羽黒神社をゴールとした競走で、参加者にわらじを配布し、願いを込め羽黒神

社に奉納してもらう事で、競走自体を参拝にすることができ、一番にわらじを奉納するために競走を行うという意味合いを持たせています。

福男福女になった

方には、羽黒神社にてお祓いを受けて頂く。これにより、一番になった際の御利益を演出、羽黒神社をパワースポットとして発信する。また、1位の福男福女には米俵を担いでもらい、各メディアに撮影して頂くことで暁まいりが健脚祈願だけでなく五穀豊穰祈願の意味合いもあるという事を広く認知させることが出来たと思います。昨年同様にカップル賞を設け、昨年のカップル賞受賞者は、なんと今年夫婦として参加していただくなど、恋愛成就を体現していただきました。また、コスプレをする参加者も増えていることから、コスプレ賞を設け、わらじまつりや暁まいり、信夫山に由来したコスプレをしてきた方の中で一番パフォーマンスが高い参加者を表彰いたしました。



第6回信夫三山暁まいり 福男・福女競走 スタート
福島 NCV - 30人が視聴中
3 0

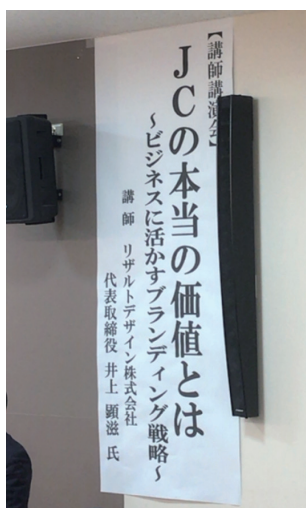


開催を担当した福島まつり継承委員会の福井誠委員長より一言「まず、本事業を開催するにあたり、多くの会員メンバー、関係諸団体の皆様より多大なるご協力を頂きました。また、昨年の数を上回る企業様、個人様よりご協賛を頂きました。感謝申し上げます。昨年は初めてテレビCMを採用し、462名の参加者を集めることが出来ました。今回はテレビCM無しでの事業告知となり、昨年の参加者数を越えることが出来るか正直不安でした。しかし、継続事業という事もあり口コミで話題に取り上げられたこと、市役所様と連携し市内全ての小中学校にポスターを配布出来たこと、そして、福島ユナイテッドFC様をはじめ保健福祉センター様など団体での参加登録を頂いたことで過去最高となる500名の参加者を集めることが出来ました。これにより、広報に予算をかけなくても十分に伝播力のある知名度の高い事業だという事が実証できたと思います。さらに、民報4社はもちろん、NHKやNCVケーブルテレビでも事業の様子が放映され、NCV様に関してはYouTubeにてタイムリーに事業の様子がアップされました。

マスコミ各社にて特集まで組んで頂き、昨年以上の放映時間だったことも本事業の話題性を象徴する結果だと思いました。また、今回の事業内容については暁まいの由来を知って頂くために、わらじを持って走ることで健脚祈願を表現し、福男福女が米俵を担ぐことで五穀豊穡祈願を表現させて頂きました。そして、カップルで手を繋いで競走してもらう事で縁結び祈願を表現させて頂きましたが、昨年カップルで参加されたペアが今年はめでたく夫婦となり参加して下さいました。参加者アンケート結果では9割の参加者から理解できた、興味が出たとの回答を頂いており、事業目的が十分に達成され、事業が大成功だったと確信しました。継続事業として知名度、話題性ともに年々高まっている本事業ですが、予算、運営体制、運営規模など今後どのようなビジョンを持って展開していくのか、そして、暁まいり自体の参拝客をどう増やしていくか等、しっかり次年度以降に引き継いで行きたいと思っております。本当にありがとうございました。

2月例会

2018.2.27 [TUE]



2018年2月27日(火) アクティブシニアセンター AOZにて2月例会を開催しました。例会後に「JCの本当の価値とは〜ビジネスに活かせるブランディング戦略〜」と題し井上顕滋さんに講演いただきました。講演では、会員拡大に必要なブランディング戦略とはなにか？青年会議所の魅力とはなにか？についてグループ討議を行い、その魅力を対外へ発信する発表を行いました。





4月6日～8日台湾にあります姉妹クラブの南投JCに、行ってまいりました。今回の訪問は、今野理事長を始めOB 5名を含む総勢21名で、7月28日に開催予定の公益社団法人福島青年会議所55周年記念式典の「招待状」を、お渡しに行っていました。初日4月6日に台北入りし、夜市など台湾の文化を見学し、翌7日の朝南投よりバスにて、林会長を中心に多くのメンバーがお迎えに来ていただきました。車で台北より約3時間、南投市は台中市よりやや南に位置する市で、福島JCとの絆は約半世紀になります。互いに周年式典の招待・来訪を交わし、友情と絆を育んできた仲間です。

今回は途中、「日月潭」という台湾で最大の湖

を観光し、非常に透明度の高い湖に感動いたしました。

南投市には夕方到着し、さらに多くの南投JCメンバーによる歓迎を受けました。南投ホテルにチェックイン後に歓迎会会場へ、会場には歴代の会長を始め、OBや多くの現役メンバーが我々21名を歓待くださいました。会では友好の品として福島より持参した「五月人形」そして「55周年記念式典の招待状」を無事お渡しすることが出来、その後の懇親会でも多くのメンバーと交流を深めることが出来ました。

7月の記念式典には林会長を始め多くの皆様で福島に来訪いただけることをお待ちしております。

